

# 白川静のことば

## 《3》



金子都美絵・画

道が外への接触を求め、人間の志向によって開かれるものとすれば、それは他から与えられるものではない。その閉ざされた世界から脱出するために、みずからうち開くものである。道をすでに在るものと考えるのは、のちの時代の人の感覚にすぎない。

人はその保護霊によって守られる一定の生活圏をもつ。その生活圏を外に開くことは、ときには死の危機を招くことをも意味する。道は識られざる霊的な外界、自然をも含むその世界への、人間の挑戦によって開かれるのである。

道の古い字形は、首を携えて進む形であり、いまの字形からいえば、導と釈すべき字である。識られざる神霊の支配する世界に入るためには、最も強力な呪的力能によって、身を守ることが必要であった。そのためには、虜囚の首を携えて行くのである。道とは、その俘馘ふかくの呪能によって導かれ、うち開かれるところの血路である。

『文字道遥』平凡社 P49-50)

